タカネトンボ　Somatochlora uchidai Foerster

1♂1♀；7—ix—1988。

以上5種確認できたが、何故屋内に侵入したのであろうか。夜露を凌ぐ場、迷入、外気との気温差、捕食行動をするため等々、勝手な推測はいくらでもできるが、人的環境がなければあり得ないことであるのは間違いない。なお電燈はない。

◎裏庭のヒメアカネ　Sympetrum pervulum Bartenef

＜採集例＞　1♀.,21—Ⅷ—1987。1♀.,Ⅱ—Ⅹ—1987。

知人の裏庭である。ここは山麓の小湿地であり生活廃水の流入はなく良好な環境が保たれている。ヒメアカネはこの湿地を中心とする林中に多数見られる。他のトンボ類は余り見られずミヤマアカネ・ナツアカネ・アキアカネ・キトンボを目撃できた程度である。地域の数人の中高年植物愛好者には知られた場所で湿地の所有者である知人も愛好者には心安くこの裏庭湿地を見学させてくれる。湿地内にはモウセンゴケやイシモチソウの食虫植物、サギソウ・トキソウ・ミズトンボ等ラン類が、岸辺にはサワギキョウ・カキラン・マアザミが、岸に上るとフジバカマ・オケラ・ソヨゴ・コバノミツバツツジ・ネズが見られ、岸辺から10m 位でアカマツ林に入る。林中にはジュウニヒトエ・キンラン・ヒメヤブラン・フタリシズカ・ヤマジノホトトギス・ムベが見られる。少し離れたススキ群落にはナンバンギセルがシイタケの榾場にはギンリョウソウモドキが見られる。湿地水のPHは 7.4。少し水道より地下水が流入しているようである。地下水のPHは 8.4であった。播磨地方の湿地はこのところ次々と埋め立てられて行くケースが多いようだが、この場所のように所有者の生活上の信条や価値観によって辛うじて、珍しい生態系を存続できている一例であることを銘記しておきたい。

兵庫県下にミヤマカメムシを産す

高　橋　寿　郎

従来兵庫県産ヒメカメムシ Rubiconia intermedia Wolff と同定して来たものの内その大部分はミヤマカメムシ Hermolaus amurensis Horváth と同定すべきであると思われるので此処に訂正しておきたいと思う。

ヒメカメムシの方は図説も多くあり稀な種と言われていながら、比較的良く知られているカメムシ

である（四国では平地で可成り多く産する様な報告もある）、一方ミヤマカメムシの方はほとんど図説されていない。僅かに日浦勇氏が図説されているのを知るのみである（原色日本昆虫図鑑　下巻 pl. 28, f. 352, p. 103, 1977）

従来ヒメカメムシと同定していた標本を並べて見ると体長が明らかに違う2種が入っており、ヒメカメムシシと思われるものは体長 7.5mm であるがミヤマカメムシは6mm 前後で、何と言っても大きな違いは頭の中葉が突出している（ヒメカメムシの方は頭の側葉は幅広く中葉の先をこえるが左右は合うことはない）。小楯板の形態も割合異なると言った諸点である。

ミヤマカメムシの分布がアムールと本州（北半）と言うのがいささか気にかかるのであるが（日浦氏は比良山糞峠産のものを図示されている）。

まずもってミヤマカメムシと同定すべきであると考える。従って筆者が六甲山上で採集したものもこの種になる（Crude No. 32, p. 25, 1988 の記録は間違っているので訂正させて頂く）。

兵庫県下には両方の種がいることになる。即ち、

ミヤマカメムシ：神戸市六甲山（2 exs.，20－Ⅴ－1985, 5 xes.，9－Ⅵ－1989, 3 exs.，10－Ⅵ－1987）．神崎郡大河内町砥ノ峯（1 ex.，15－Ⅶ－1977）．宍粟郡赤西（2 exs.，23－Ⅴ－1979）．美方郡扇ノ山［高橋，1976］．

ヒメカメムシ：兵庫［三橋，1915］．佐用郡［井口，1908］．宍粟郡音水（1 ex.，25－Ⅵ－1972）．

西宮市でナガサキアゲハを採集

田中　稔

ナガサキアゲハ Papilio memnon LINNAEUS を西宮市で採集しているので報告する。

1♂、兵庫県西宮市甲陽園本庄町、31.Ⅷ.1982,田中稔採集,

阪急電鉄甲陽線甲陽園駅附近の大地より流れ出る川の砂地で吸水中のものを採集した。採集した西宮産♂は、沖縄県産同♂に比べて翅長はかわらないが翅表。裏共に青藍色の鱗粉が少なく、翅裏には特に少ない。私の西宮市における本種の目撃例として以下記しておく。

●西宮市神原、10.Ⅴ.1985,（つつじの花に訪花中の複数の♂♀，）

●西宮市仁川百合野町、27.Ⅶ.1980,（蝶道をつくって飛翔中の複数の♂）